

平成27年度 特定給食施設等研修会実施報告書(児童福祉施設)

1. 研修会の開催概要

目的 健康増進法第18条・第22条、奈良市21健康づくり<第2次>及び第2次奈良市食育推進計画に基づき、児童福祉施設等における食事摂取基準2015年版の活用をふまえた栄養管理の向上及び栄養管理に関する意識向上をはかる。

日時 1回目 平成27年10月23日(金) 14:00～16:00

2回目 平成27年11月13日(金) 14:00～16:00

3回目 平成27年12月11日(金) 14:00～16:00

場所 奈良市保健所・教育総合センター(はぐくみセンター) 3階大会議室

対象 特定給食施設のうち、児童福祉施設(公・私立保育所及びこども園)・幼稚園で特定給食施設等に該当する施設の栄養管理担当者

	内容	資料
1 回 目	①講義「児童福祉施設における栄養管理について ～食事摂取基準2015年版の活用をふまえて～」 帝塚山大学 現代生活学部 食物栄養学科 講師 岩橋 明子氏	講義資料① ワークシート① 計算シート
	②グループワーク及び情報交換	
	<概要> 児童福祉施設における栄養管理について、食事摂取基準2015年版の活用を踏まえて「給食施設における栄養管理の手引き」から抜粋したワークシートを使い実際の活用の流れを検討した。	
	<ポイント> 児童福祉施設における栄養管理は、集団だけでなく個別の役割もあわせもつ。栄養管理を行うにはPDCAサイクルが基本となるが、その前のアセスメントとして平均ではなく個人分布で評価を行うことが重要である。乳幼児期は成人と異なり、成長することが前提にあるので、1年の中でも定期的に評価を行い給与栄養目標量の見直しを行う必要がある。	
2 回 目	①グループワーク及び情報交換 「根拠をもった目標設定及び栄養管理の見直し時期について」	ワークシート②
	②講義「献立作成基準の作成について」	
	<概要> 前回の内容を受け、食事計画の設定方法と見直し時期について各施設での取り組み状況を中心に情報交換を行った。また、給与栄養目標量の設定見直しにより献立作成基準となる他の食品構成表等の見直しも必要となることから、具体的な手法についてワークシートを用いて具体的方法を学んだ。	
	<ポイント> 給与栄養目標量は各施設で設定できるが、その設定根拠を栄養管理担当者が説明できることが重要である(施設利用者の家庭での食事状況や体格等が)。献立作成において基準となるものを持ち合わせていることが大切である。	
3 回 目	①グループワーク及び情報交換 「施設栄養士として集団及び個別でできるアプローチ」	講義資料②
	②講義「体格による個別支援必要者へのアプローチ」	
	<概要> 肥満・やせ・アレルギー・発達など個別栄養管理が必要な児の栄養管理の現状を共有し、今回は特に肥満児への支援の意義を確認した。成長曲線や肥満度を用いた確認とあわせて個別相談、施設間での情報共有が重要であることを学んだ。	

	<p><ポイント></p> <p>体格については、肥満ややせをなくすことが目的でなく、個人に応じた生活習慣を確立することが大切である。肥満度は定点における評価であるため、成長曲線で個人の成長を合わせて確認することが重要である（肥満度が「ふつう」であっても成長曲線では急激な体重の伸びが確認される場合、生活の見直しが必要となる。）個人においては、生活環境を含めた理解とアプローチが必要であり、個人を取り巻く施設内職員の共通認識と共通理解が不可欠である。</p>	
--	---	--

2. 研修結果

参加者状況	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養管理担当者 平均 15 名参加/回 ・施設参加割合 45%（私立こども園及び保育園）
アンケート	回収率：100%（15 名）以下 12 月 11 日参加者アンケート結果から抜粋
結果	① 研修会への参加を通じて、施設の栄養士として今後取り組みたいことは何ですか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・個別対応を進めていければと思いました。 ・施設の状況にあった栄養管理を行っていきたいと思います。 ・子ども達の健康状態を把握し、子どもに合わせた献立を作り、提供出来たらと思います。 ・調理や献立作成に時間を取られて、なかなか部屋の様子を見にまわったり、保育士の先生と話すことが出来ないでいるので、少しの時間でも作って、リアルな情報を得ていきたい。 ・食品構成の見直し ・個別のアプローチなどもっと取り組んでいけたらいいと思いました。おかわりの量や回数について検討したいと思います。 ・発達障害の児童への個別支援について考えていきたいです。離乳食についても個別の対応。そしゃくについての勉強、スキルアップ。 ・個別対応するべき児童には支援をしていく方向で考えていきたい ・施設の児童の様子をしっかりと知り、献立作成から考えていきたい。
	② 研修会全体を通して、参加された感想や意見等
	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な栄養士の方と意見交換をすることが出来、良い機会でした。 ・他園の栄養管理方法や個別支援方法などの情報交換ができ、大変勉強になりました。この様な研修会を開催して頂き、ありがとうございました。 ・貴重な時間をいただきありがとうございました。気づかなかった点が多々あり気づけて良かったと思います。献立作成の見直し等努めていきたいです。 ・たくさんの“気づき”がありました。給食室という少し隔離された空間で保育士の先生方との距離を縮めて、よりよい関係を築いていき、給食のいろんな意味での向上を考えていきたいです。 ・3回あったので、色々な人と意見交換ができ、良かった。続けて研修があったことで、分かりやすかった。 ・他の施設の方の話聞くことはあまりないので良い経験になりました。 ・GWの意見交換がとても良かったと感じています。事例を知ることで取り組みやアプローチがかわるのかなと思います。 ・全く園の状況もわかっていない状態で参加して、少しずつですがわかってきて、これからにつなげていきたいと思っています。 ・今回、3回の研修会で、献立作成や個別支援について深く考えることが出来た。又、各施設の栄養士の方との意見交換の時間が多く、普段出来ない話が出来たのでとても良かった。 ・栄養管理の方向性や具体的にほかの園がどうしているかが分かりました。大変ためになりました。ありがとうございました。 ・委託、直営の栄養士さんとお話ができ、色々と勉強になりました。 ・新しくできた保育園で何からスタートしたら良いのか迷いもありましたが研修に参加し道筋を見つけられたように思います。ありがとうございました。

3. 今後について

子どもを取り巻く食環境は年々変化していますが、子どもの頃からの食事が将来の生活習慣の基礎となることには変わりありません。成長するに従い定着した生活習慣を改めることは徐々に困難になりますので、学童期までに望ましい食習慣を身につけ、健康的な体格を維持することが生活習慣病予防において重要です。そのため生活の多くの時間を園で過ごす子どもにとって、支援者の関わりが非常に重要であり、必要に応じて保護者も含めた適切な情報提供が不可欠です。今回の研修会がきっかけとなり、各園で食事摂取基準 2015 年版を活用した栄養管理が進み、集団だけでなく個別支援の取組みが進むことを願います。

家庭・園・地域（医療、行政含む）の連携した取組みが進むことで、1人1人の子どもが健康的で望ましい食習慣を身につけ、将来の生活習慣病のリスクを可能な限り減らせるよう、今後ともご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。